

県民健康調査「健康診査」関連論文※の紹介  
(避難生活による影響)

放射線医学県民健康管理センター  
健康診査・健康増進室

※第30回検討委員会以降に公表されたもの

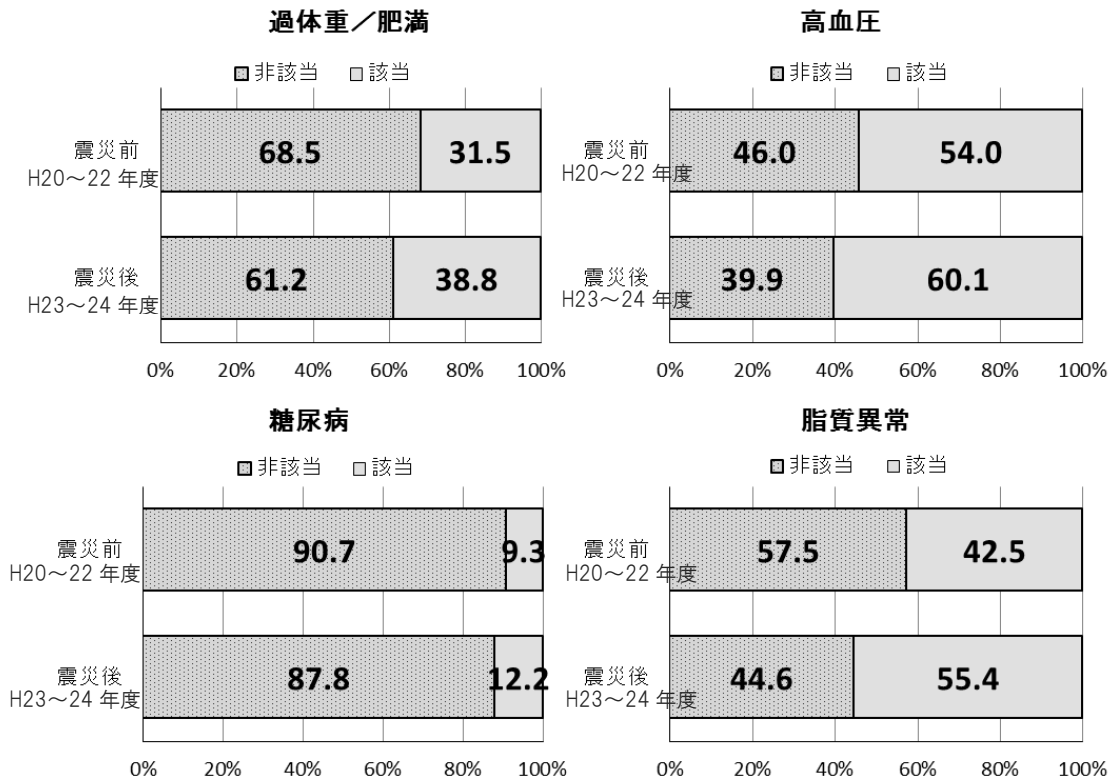
参考論文 1

Trends in lifestyle-related diseases before and after the Great East Japan Earthquake: the Fukushima Health Management Survey

東日本大震災前後における生活習慣病の推移：福島県県民健康調査

大平哲也（福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター）他

「Journal of National Institute of Public Health」(2018)



2011年3月11日、東日本大震災が発生し、それに引き続き福島第一原子力発電所の放射線事故が起こった。原子力発電所周辺の多くの住民が避難を余儀なくされ、生活習慣に変化が起こってきた。そこで、各市町村で実施している健康診査、及び福島県で実施している県民健康調査のデータを用いて、震災後の避難が循環器疾患危険因子及び生活習慣病に影響する可能性を検討した。本稿では、震災前後における健康診査結果の変化及び県民健康調査の生活習慣病に関する縦断的検討の結果を概説する。震災前後において健康診査データを比較した結果、震災後、避難区域住民においては過体重・肥満の人の割合、及び高血圧、糖尿病、脂質異常、肝機能異常、心房細動、多血症有病率の上昇がみられた。

さらに、震災後1~2年間（H23~24年度）と3~4年間（H25~26年度）の健診データを比較したところ、糖尿病、脂質異常についてはさらなる増加がみられた。したがって、避難区域住民、特に実際に避難した人においては心筋梗塞や脳卒中などの循環器疾患が震災後に起こりやすくなる可能性が考えられた。また、これらの要因としては震災後の仕事状況の変化、避難による住居の変化などによる身体活動量の低下、心理的ストレスの増加などが考えられた。今後、避難者の循環器疾患を予防するために、地域行政と地域住民が協働して肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常の予防事業に取り組む必要がある。

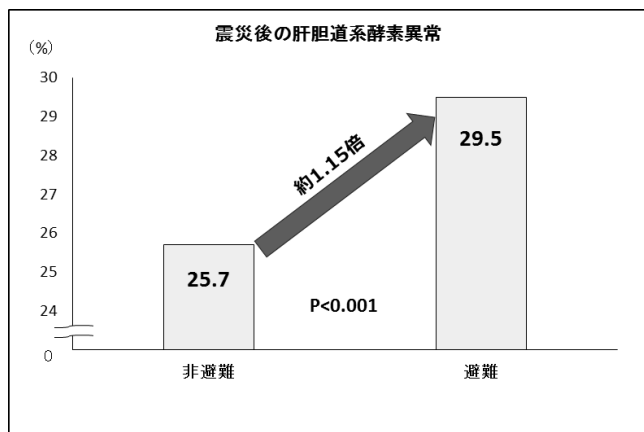
参考文献 2

Effects of lifestyle on hepatobiliary enzyme abnormalities following the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident: The Fukushima health management survey

震災後の肝胆道系酵素異常への生活習慣因子の影響：福島県県民健康調査

高橋敦史（福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター）他

「Medicine」(2018) . 2018, 97(42):e12890.



22,246人における震災後の肝胆道系酵素異常に影響する因子の多変量ロジスティック回帰分析

	非避難者 (12,705)		避難者 (9541)	
	OR (95% CI)	P	OR (95% CI)	P
年齢 (+1歳)	1.01 (1.01-1.01)	<.001	1.01 (1.01-1.02)	<.001
性別(男性)	3.63 (3.29-4.00)	<.001	3.74 (3.35-4.16)	<.001
喫煙(はい)	1.06 (0.95-1.18)	0.32	1.06 (0.94-1.19)	0.345
<b>アルコール摂取量</b>				
軽め	0.99 (0.89-1.10)	0.846	1.10 (0.98-1.23)	0.109
中程度/多量飲酒者	1.83 (1.62-2.06)	<.001	1.80 (1.58-2.05)	<.001
<b>身体活動</b>				
週に2~4回	1.21 (1.04-1.41)	0.014	1.20 (1.02-1.42)	0.03
週に1回	1.33 (1.13-1.56)	<.001	1.31 (1.09-1.57)	0.004
なし	1.35 (1.18-1.55)	<.001	1.39 (1.19-1.61)	<.001
転職	1.16 (1.05-1.28)	0.002	1.15 (1.02-1.29)	0.021
失業	0.98 (0.85-1.13)	0.734	1.18 (1.05-1.32)	0.005
睡眠不満(はい)	1.04 (0.97-1.13)	0.462	1.04 (0.94-1.16)	0.462
K6 ≥13	0.96 (0.81-1.13)	0.591	1.05 (0.90-1.22)	0.569
PCL-S ≥44	1.02 (0.89-1.18)	0.747	0.99 (0.87-1.14)	0.922

ロジスティック回帰分析を使用した(従属変数:肝胆道系酵素異常、関心のある独立変数:各生活様式の有無、調整変数:年齢、性別、避難、喫煙、アルコール摂取、身体活動、転職、失業、睡眠不満、心理的苦痛および心的外傷後ストレス障害)

CI =信頼区間、K6 =ケスラー6項目尺度、OR =オッズ比、PCL-S =心的外傷後ストレス障害チェックリスト

2011年の東日本大震災以降、避難区域を含む13市町村の地域住民の方を対象に県民健康調査「健康診査」と「こころの健康度・生活習慣に関する調査」が実施されている。これまで我々は健康診査の結果から、震災後に肝障害（肝胆道系酵素異常）の割合が増加し、震災後の避難が肝障害のリスクとなることを報告した。本論文では、健康診査の結果（H23年度）にこころの健康度・生活習慣に関する調査の結果（H23年度）を連結して、肝障害の要因を明らかにすることを目的とした。肝障害は対象（22,246人）の27.3%で認められた。実際の避難生活の有無別では、避難生活者でその頻度が高く（避難29.5%、非避難25.7%、P < 0.001）、男性、中等量以上の飲酒、活動量低下は避難の有無に関わらず肝障害のリスク要因となった。さらに、非避難者では転職が、避難者では非雇用がそれぞれ肝障害のリスク要因であった。本論文で、震災後の肝障害に様々な要因が影響していることが示された。